



研究部だより

No.2 令和6年6月発行

研究主題

生涯にわたる豊かな学びを目指した授業づくり
～児童生徒の夢や願いを基点とした

「わかはとシステム」の活用～

夢や願いを授業に反映させるしくみ（つながりミーティングの紹介）

対話を大切にした面談から、児童生徒の夢や願いを明らかにした後、「つながりミーティングⅠ」が行われます。ここでは全校職員が縦割りグループに分かれ、単元（題材）計画の構想や、子どもの変容の分析などを行います。2回目以降は、授業の進捗や生徒の変容などの状況について協議する場となり、授業を評価する機能を発揮します。こうして「つながりミーティング」は APDCA サイクルの中に位置付けられ、本校の授業づくりにおいて重要な役割を担っています。

「生涯学習力」の広がりや深まりのモデル			
人とつながる	なかまといっしょに	人とつながりをもとう・広げようとしている	人とつながりを広げよう・深めようとしている
情報を集める	見てみよう・聞いてみようとしている	見て聞いて調べようとしている	経験を生かそうとしている
試す	やってみようとしている	考えて試してみようとしている	挑戦し続けようとしている
自分を知る	好きなことを知ろうとしている	いろいろな自分を知ろうとしている	なりたい自分を知ろうとしている
「生涯学習力」を広げたり深めたりするための基盤【好奇心】【興味・関心】【夢中】			

わかはとモデル
～「生涯学習力」を見取る視点～

つながりミーティングⅠより（5月13日実施）

1回目は、担任からの情報を基に、単元構想について協議します。縦割りグループのよさを生かした多様、多彩な意見に加え、行事や地域資源などとの関連についても検討する場となっています。今回は、各グループから話題になったことの一部を掲載します。

<中学部3年 生活単元学習についての協議より>

【構成メンバー】中3担任、中学部主事、研究部（中学部）

小学部職員2名、高等部職員2名

計7名

<概要説明>



担任

- ・ 昨年、じゃがいもを使った調理をしたいという生徒の声から、栽培～収穫～メニュー考案という活動を展開し、校内外の人に振る舞う経験もしました。
- ・ 今年、修学旅行でポテト料理専門店に行きます。そこで新メニューの開発や接客に生かすことのできるものがないか、取材してくる予定です。



「わかはとモデル」の視点を意識しながら考えを付せんに書き、シート上に分類します。

3年間の締めくくりに
相応しいゴールを

うまいかない経験、それを乗り越える
ようなシナリオも



新作の試食会など
はどうでしょう？

調理と接客を繰り返す中で自己
理解も大切に

人とつながる	先生方がアンケートに参加（味付けなど）	スーパーや農家で売り物にならないじゃがいもはもらえないか？0円食堂。	いろいろなジャガイモ（種類）で作ってみる	試す
	〇〇さんのために作りたい→提供時コミュニケーション	新作試食会→気軽に参加	中学部3学年が同じ日に出席	大げさにうまくいかないシナリオ
情報を集める	PTAなどでふるまえないか？卒業前保護者に	3年間のまとめに向けて～ゴール的な交流	2, 3回は山場（目的）をもってきた	ポテトを売る。どうしたら、買ってもらえる？
	どうして、ポテトは人気者？いろんな国のポテト料理調べ	“どうしたら、うまく作れる？”サイゼリヤと東京の違い、フライドポテトのポイント整理”	フルーツ・ブルージュ（〇〇マヨ、サワークリーム）いろいろな味を試す	様々な作り方で試行錯誤→よさを知る。課題を知る。アンケート。写真、動画。味見。体験...
自分を知る	おもてなしの仕方。彩り。量。形など	修学旅行の生かし方。接客、かざり、看板、味	試した後の振り返りをもとに、自分は〇〇が得意。友達とは△△が得意...と客観性	
	お客様アンケート（好きな味、食べやすい形）	やってきたこと、知っていることを伝える（新しい人）		

これらの意見を年間指導計画や、個々の目標設定に反映し、授業実践がスタートします。